

<別添2>

APFED 第2フェーズ第4回全体会合の結果概要

2008年7月25日～26日に、フィリピン・ダバオ市にて、川口順子元環境大臣／元外務大臣を議長として開催された「アジア太平洋環境開発フォーラム第2フェーズ(APFED II)第4回全体会合」における議論の主な結果は、以下のとおり。

1. APFEDIIの活動全般について

- 持続可能な開発を促進するためにAPFEDIIの活動をさらに強化すること、特に今までに得られた知見や優良事例等について広く情報を発信し、同様の事例をアジア・太平洋地域で増やしていくことの重要性が確認された。
- APFEDIIの活動実績を踏まえ、2013年以降の気候変動政策の枠組み作りや生物多様性に関する国際的な政策討議に対して、有益な知見を提供していく方針が確認された。
- 気候変動と3Rに加えて生物多様性をAPFEDIIの各活動の優先分野とすることが提案されるとともに、各分野は相互に密接に関連しており、それらの間の連携の強化、相互に有益なコベネフィットなアプローチの重要性が強調された。
- APFEDIIの活動の有効性が再確認され、APFEDII終了後(2010年)の諸活動の継続のあり方について前向きに検討すべきとの意見が多く出された。

2. 知識イニシアティブ

- APFEDIの議長であった故橋本龍太郎元総理の名が冠せられた今年度の「橋本龍太郎記念 APFED 賞」の授賞式が開かれ、金賞及び銀賞の3団体と、奨励賞を受賞した3団体のうち現地ダバオの団体の代表者に授与された(活動の詳細については参考資料参照)。また、今回の応募の傾向、選考過程、来年度の実施計画について事務局より報告された。
 - 【金賞】
焼畑農業管理による二酸化炭素及び他の温室効果ガスの影響低減
(マノハリ開発研究所(MDI)、ネパール)
 - 【銀賞】
 - (i) 廃棄物管理改善と再生可能なエネルギー利用促進を目的としたクリーン開発メカニズムを使った官民協力ビジネスモデル
(PT・ギココ・コギョ・インドネシア、インドネシア)
 - (ii) 地域生活の向上:持続的で安全な野菜生産の推進
(バングラデシュ農業調査研究所(BARI)昆虫学部門、バングラデシュ)
 - 【奨励賞】
固形廃棄物の環境配慮型処理プログラム
(ダバオ・デル・ノルテ州スト・トマス市、フィリピン)
- 知識イニシアティブの活動の進展が歓迎され、さらなる効果を上げるため今後は次の諸点について考慮していくことが重要である旨の指摘がなされた。
 - (i) APFED賞の受賞申請の裾野を広げるとともに申請の質を高めるための、募集期間の延長。
 - (ii) 前年の金賞受賞者の選考委員会への参加。
 - (iii) 優良事例の敷衍・応用化を進めるため、受賞できなかった事例や関連事例も含め

た APFED 優良事例データベースの拡充。

3. 革新的ショーケース・プログラム

- ショーケース・プログラムの対象として 2006-7 年度に選定された各事業について現在までの進捗状況が事務局から報告された。
- 7月24日に行われたショーケース・プログラム・パネル会合において決定された、今年度の対象事業の選考結果(計13件を採択)が報告された。
- 来年度のショーケース・プログラムの優先分野として、持続可能な開発を実現するためという目的の下、エネルギー問題を含む気候変動、3R及び生物多様性、特にそれらの間での関連性について考慮することが確認された。
- ショーケース・プログラムの進展が歓迎されるとともに、さらに有効に活用していくため、以下の諸点の重要性が指摘された。
 - (i) 実施中及び実施済みの案件の成果の評価及びそれに対するNetRes等の協力。
 - (ii) プロジェクトの形成段階からNetResが関わることにより、優先順位の高い政策課題と地域における活動とのより密接な関連性の確保に努めること。
 - (iii) 情報の共有・発信の強化。特に今までに得られた知見や良好事例の共有・普及による他地域での応用。
 - (iv) 情報の共有・発信のために事務局が立ち上げたホームページの拡充。
 - (v) 同プログラムの重要性を踏まえ、APFEDII終了後(2010年以降)も同プログラムを何らかの形での継続。

4. アジア太平洋環境開発研究機関ネットワーク(NetRes)

- APFED 事業の効果的実施に向けた NetRes の各研究機関間の連携強化のための方途や作業計画について議論された。

5. APFEDII 最終報告に向けて

- 2010年に開催予定のアジア太平洋環境開発大臣会合(MCED)において APFEDII の成果を発表することを視野に、最終報告書の取りまとめを行うことが合意された。(※ APFED I の成果については、2005年の MCED で発表した)
- 最終報告書については、APFEDIIの活動結果をまとめるだけでなく、アジア太平洋地域での持続可能な開発に関する長期的かつ包括的なガイダンスとなるようなものにすべきであり、そのためには、最終報告書の作成プロセスが重要であることが強調された。
- 2009年に開催予定の気候変動枠組条約締約国会議(COP)15や、2010年開催予定の生物多様性条約 COP10等、今後の重要な関連政策プロセスへ APFED からインプットしていくことの重要性について議論がなされた。
- APFEDII の成果・有用性が再確認され、APFEDII 終了後も、環境保全と持続可能な開発に関する地域間協力である APFEDII の諸活動を、何らかの形で継続すべきであること、そのためには日本国政府の継続的な支援及びADB(アジア開発銀行)、UNESCAP

(国連アジア太平洋地域経済社会委員会)、UNEP(国連環境計画)、UNU(国連大学)等の国際機関や、ASEM(アジア欧州会合)、AECEN(アジア環境履行実施ネットワーク)等の地域ネットワークとの協力強化が必須であることが強調された。

6. 政策対話

- 昨年度の政策対話(12月:気候変動に関する政策対話、3月:持続可能な開発のための教育(ESD)と3Rに関する政策対話)の結果が事務局から報告された。
- 「気候変動」、「3R」、「生物多様性」を、引き続き政策対話の優先分野とすることとなったが、特に分野横断的な事項や新規の事項についても今後のテーマとして検討することとなった。
- 多様な主体、特に民間部門や市民社会の参画の有用性が強調された。

7. 特別政策対話セッション

- 「コベネフィット・アプローチによる気候変動対策と貧困削減」及び、「生物多様性の保全、と農業・生物生産性の向上」について、外部有識者を交えて議論が行われた。アジアに残存する貧困問題や食糧・燃料価格の高騰の打撃を受けるアジアの途上国の現状を踏まえ、今後こうした課題について議論をさらに深めて行くことが確認された。